

五條市
がん検診の市民実態調査

調査目的

- ①五條市における本当の受診率の把握
- ②市で既に実施している取り組みの効果の検証
- ③受診率の向上のために効果的な方策の検討

調査概要

1. 調査対象

市内在住の40－74歳のうち、層化無作為抽出した2,000人を対象とした。

2. 調査期間

平成26年9月12日(金)～10月3日(金)

3. 回収状況

男性404人、女性542人、性別無回答27人含む合計973人から有効回答を得た(有効回答率は48.7%)。

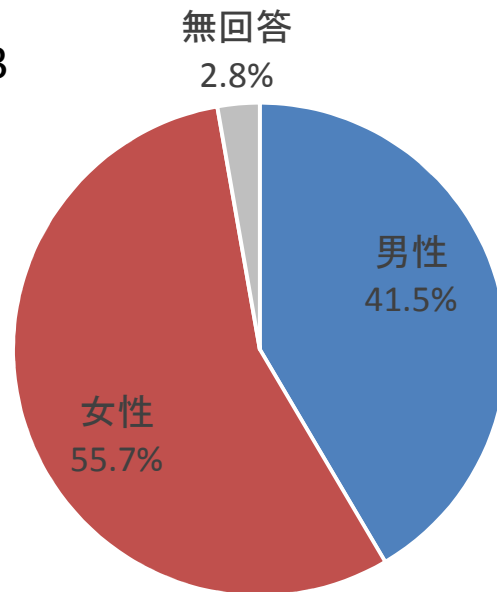
4. 調査項目

回答者の属性、市のがん検診制度の認知、がん検診受診制度の有無、がん検診の受診状況および受診機会、がん検診受診場所を選ぶ基準、未受診理由、今後の受診意図、がんにかかることの心配度、がん検診に関する意識、受診のきっかけ、市の検診案内の認知、居住地域

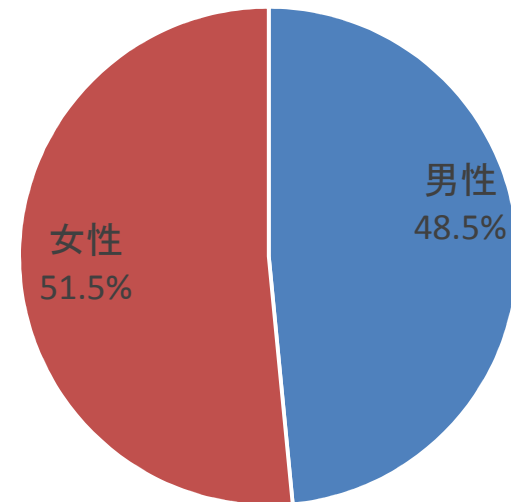
対象者の属性(性別・年代)

性別の分布

＜調査回答者の性別構成＞
n=973



＜実際の人口の性別構成＞
(平成26年9月時点)
n= 14,641



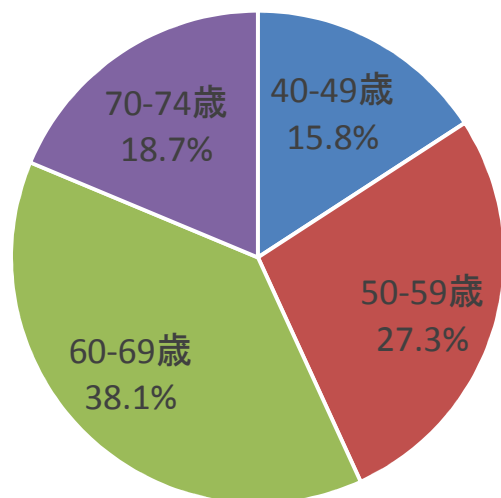
* n=調査回答者全体

対象者の属性(性別・年代)

年代の分布

<調査回答者の年代構成>

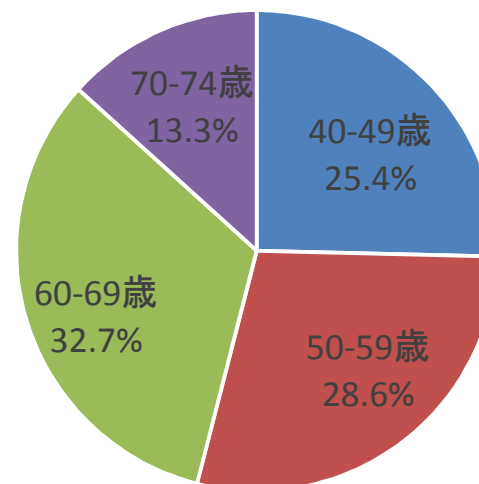
n=973



<実際の人口の年代構成>

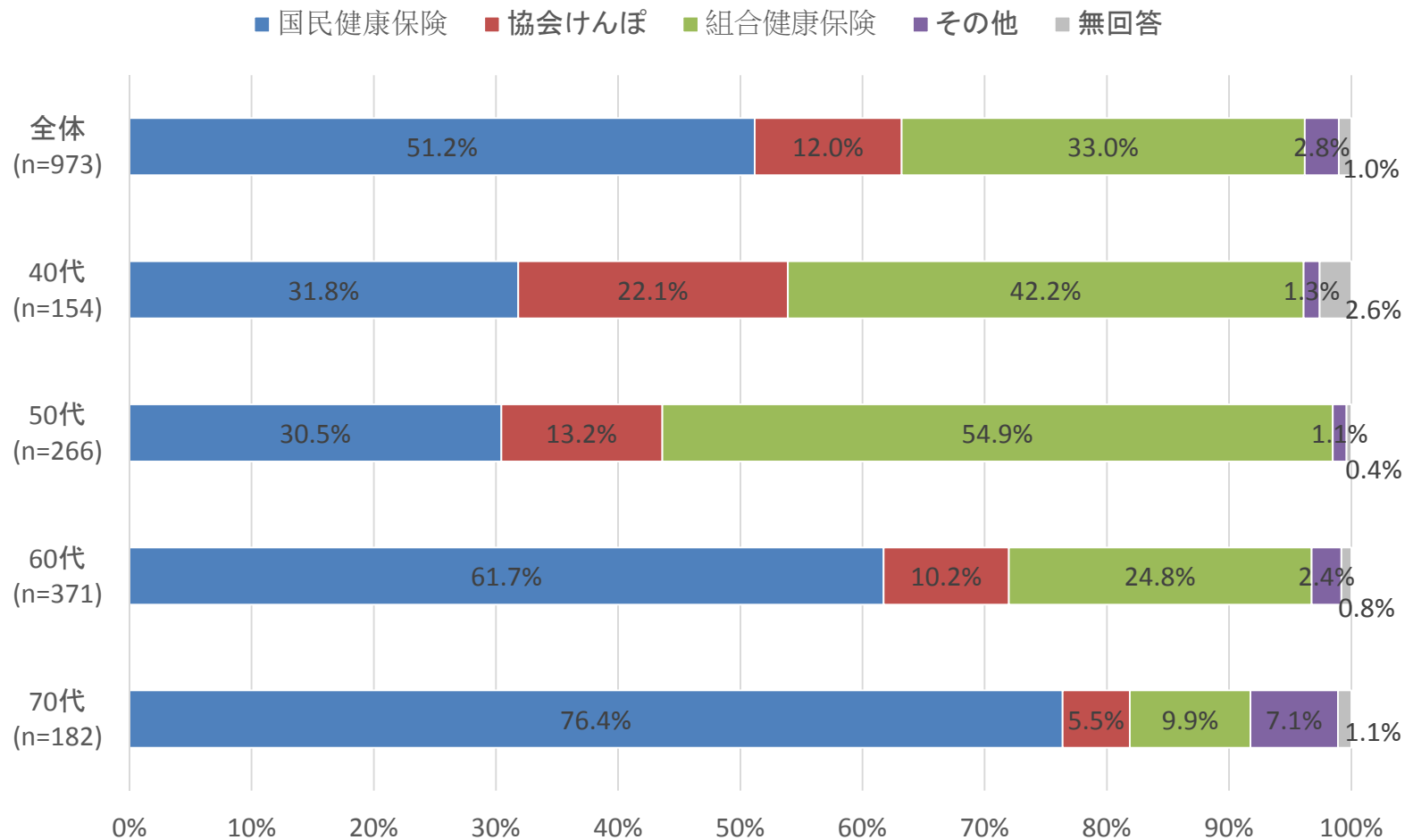
(平成26年9月時点)

n= 14,641



* n=調査回答者全体

対象者の属性(健康保険)



* n=調査回答者全体

対象者の属性(居住地域)

	本調査から得られたサンプル		実際の人口	
	n	割合	n	割合
五條地区	929	99.7%	30,281	90.1%
西吉野地区	2	0.2%	2,944	8.8%
大塔地区	1	0.1%	375	1.1%

対象者の属性

	本調査より得られた 市の検診受診率	市の保健事業実績報告 書より得られた 市の検診受診率※
胃がん検診	7.3%	6.1%
肺がん検診	9.2%	7.6%
大腸がん検診	14.6%	14.9%
乳がん検診	24.7%	19.5%
子宮がん検診	16.1%	21.5%



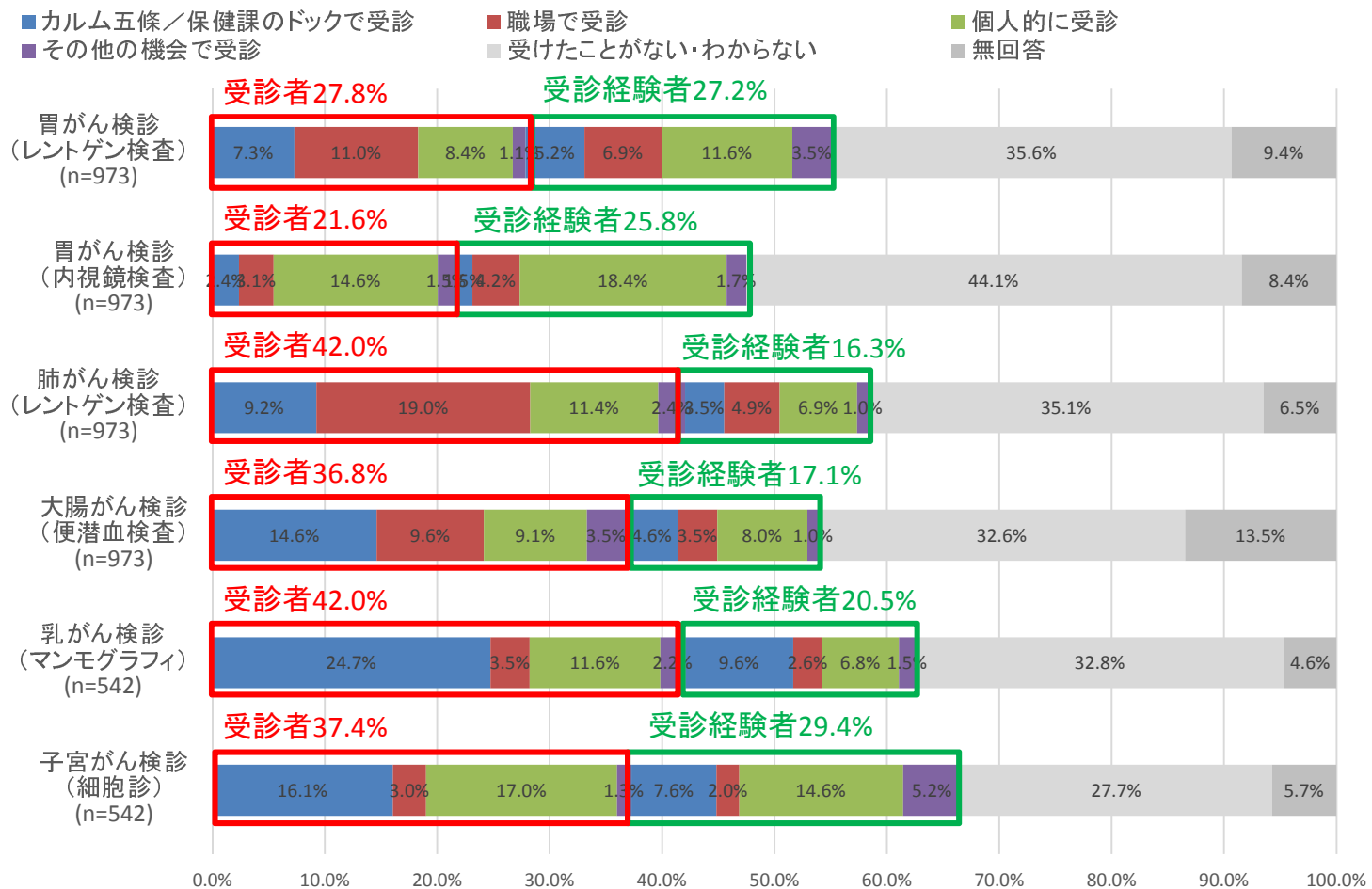
本調査は一定以上の精度を確保していると考えられる

調査目的

- ①五條市における本当の受診率の把握
- ②市で既に実施している取り組みの効果の検証
- ③受診率の向上のために効果的な方策の検討

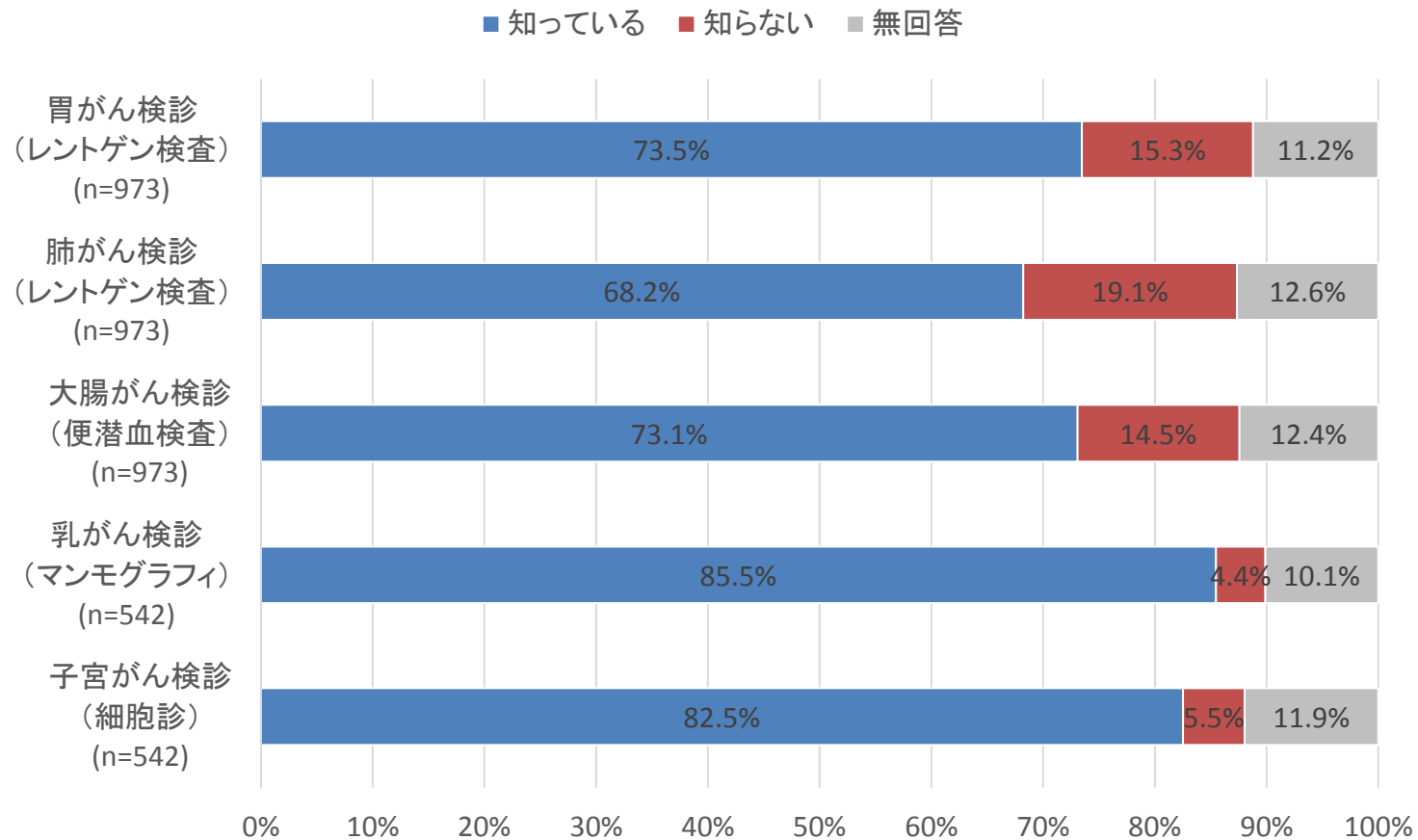
がん検診の受診状況

五條市においては、職域・個人受診を含めると肺がん・乳がんの受診率が高く、国の目標値である50%まであと一歩となっていた。



がん検診の認知状況(全体)

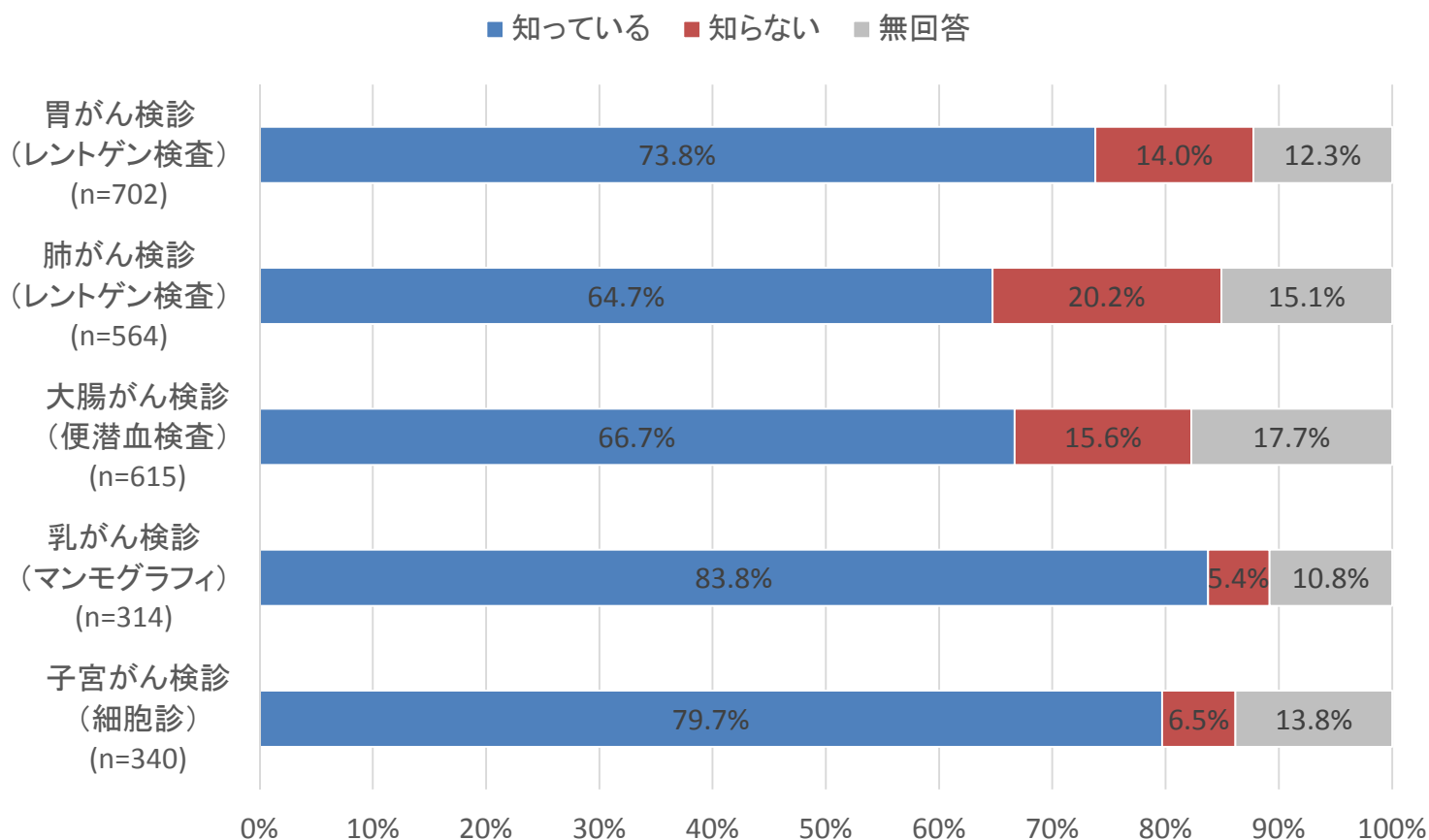
市のがん検診の認知状況については、全体では7割前後となっていた。



* n=調査回答者全体

がん検診の認知状況（未受診者）

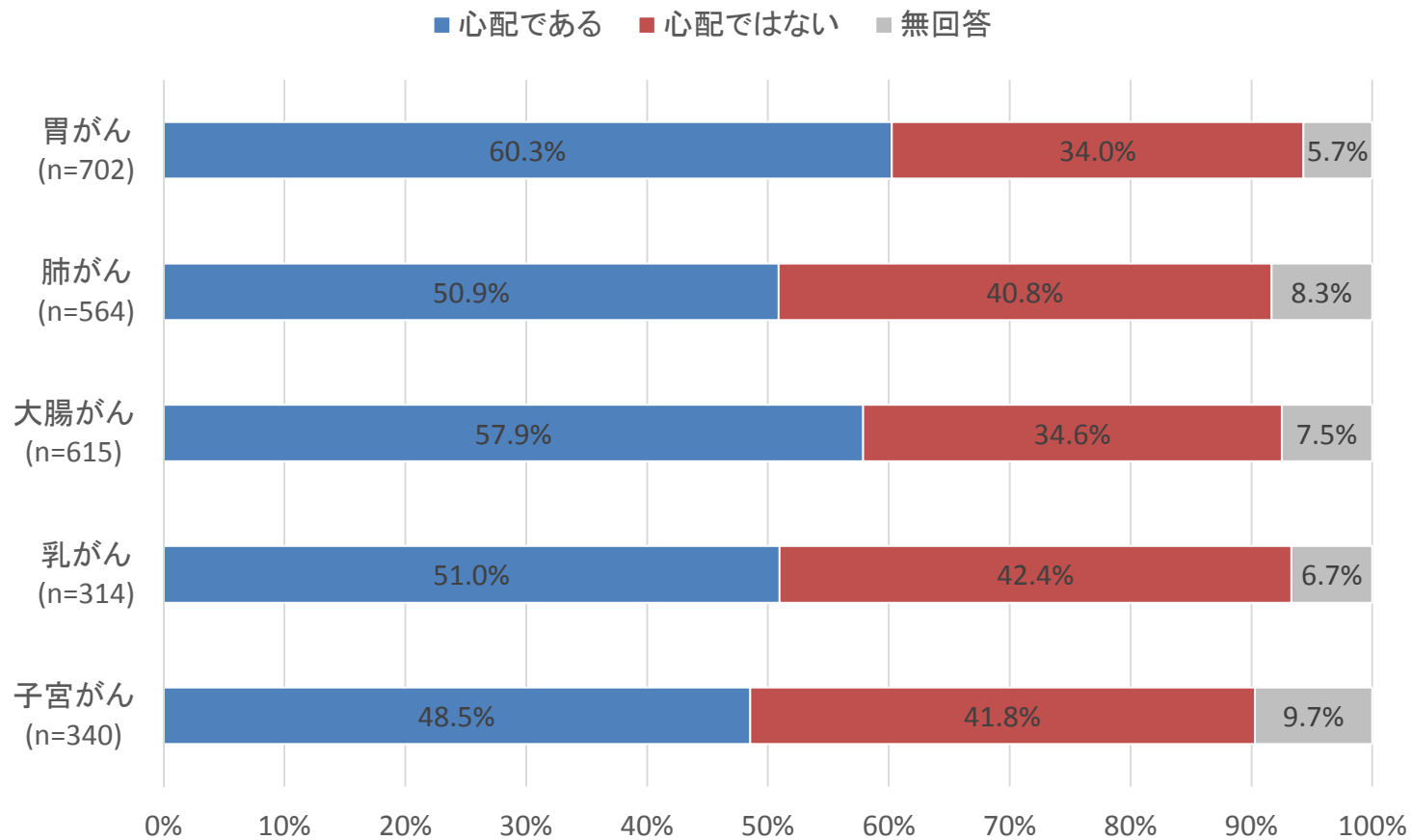
未受診者に限定してみても、市のがん検診について、
6～7割もの人が認知していた。



* n=未受診者

がんにかかることの心配度（未受診者）

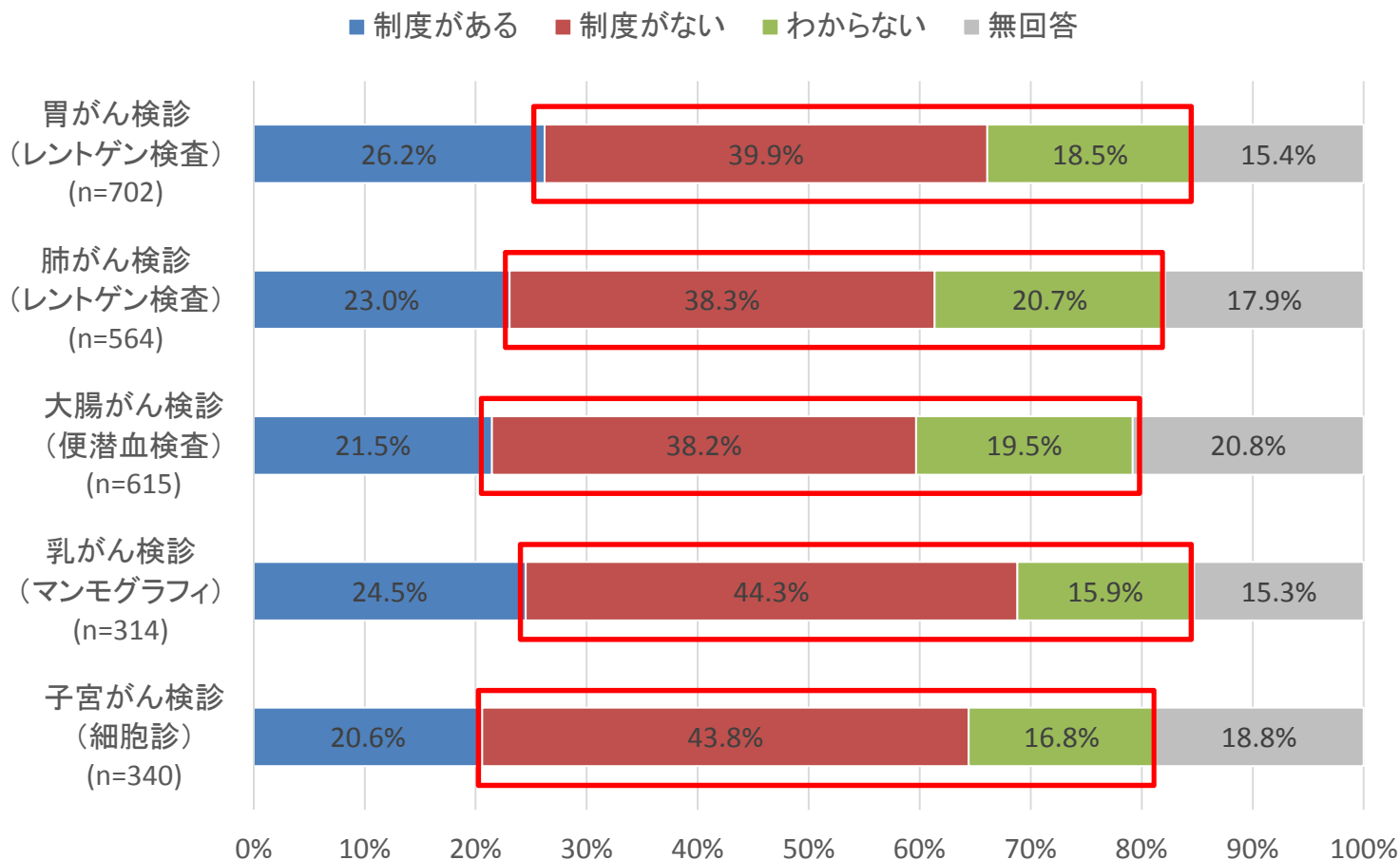
また、がんにかかることに関して、
未受診者では半数近くが「心配」と感じていた。



* n=未受診者

がん検診の受診制度の有無（未受診者）

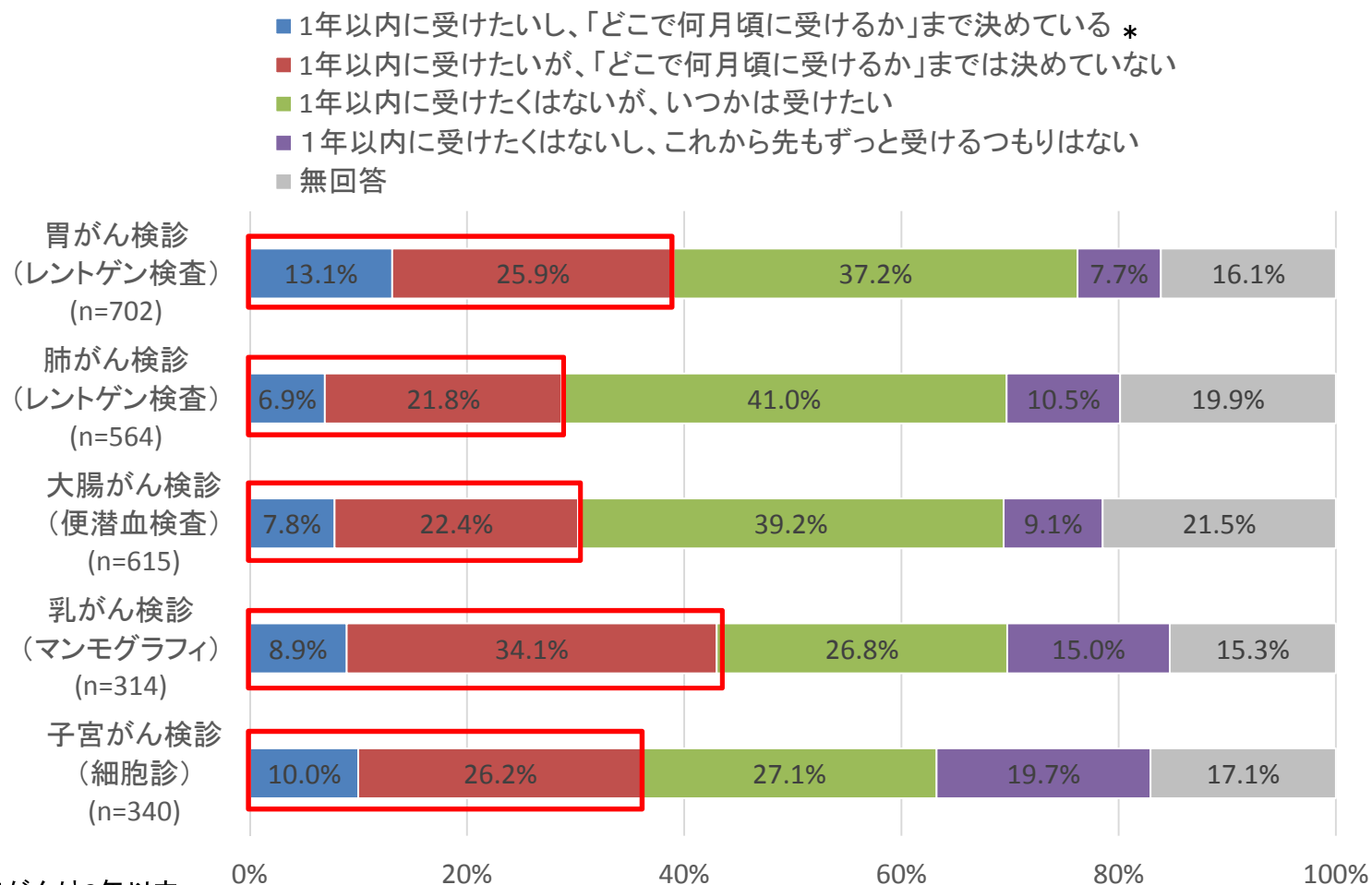
未受診者では、がん検診を受診することができる制度について
6～7割が「制度がない」「わからない」と回答していた。



* n=未受診者

がん検診の今後の受診意図(未受診者)

また、未受診者では3~4割が1年以内の受診意図を有していた。



* 乳・子宮がんは2年以内

* n=未受診者

未受診理由（未受診者）

また、未受診理由としては明確な意思があるわけではなく、「なんとなく、受けなかった」が最も多かった。

1位	なんとなく、受けなかった 28.8%
2位	受ける意思はあったが、結果として受けられなかった 21.8%
3位	受ける意思はないため、受けなかった 13.8%

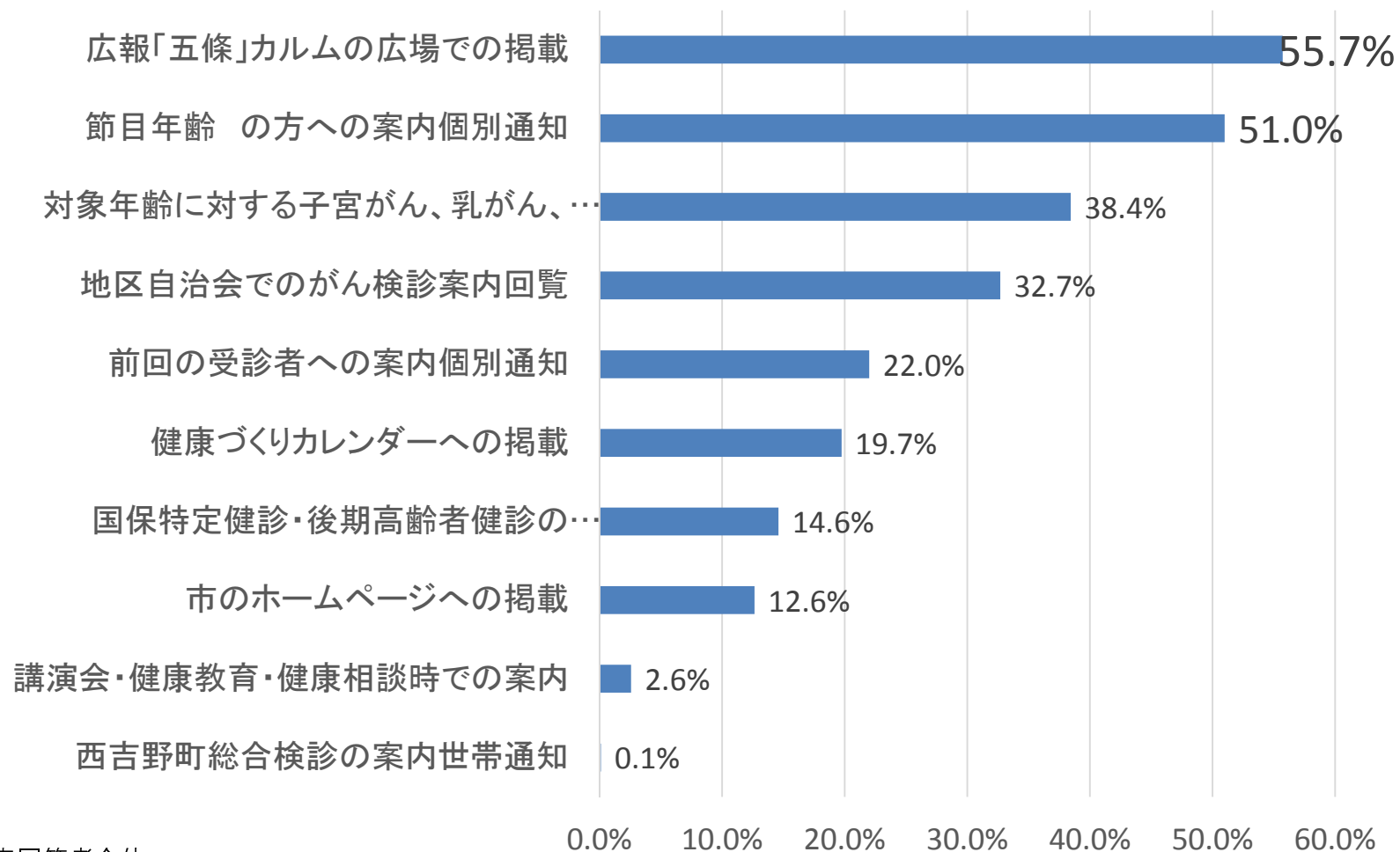
(n=615)

調査目的

- ①五條市における本当の受診率の把握
- ②市で既に実施している取り組みの効果の検証
- ③受診率の向上のために効果的な方策の検討

市のがん検診の案内（周知方法）の認知状況

市でこれまでに実施しているがん検診の案内については、
広報での掲載、また節目年齢への個別通知について
認知している割合が高かった。



* n=調査回答者全体

周知方法の認知と効果－男性

男性	認知率	男性404人中	胃がん受診	肺がん受診	大腸がん受診	獲得人数推計 (のべ人数)
広報「五條」カラムの広場での掲載	50.0%	202人	34.2%	52.0%	44.1%	263人
節目年齢の方への案内個別通知	42.1%	170人	35.3%	51.8%	39.4%	215人
地区自治会でのがん検診案内回覧	29.0%	117人	35.9%	53.8%	47.0%	160人
対象年齢に対する子宮がん、乳がん、大腸がん検診の無料クーポン券の送付	19.8%	80人	46.3%	60.0%	46.3%	122人
前回の受診者への案内個別通知	14.6%	59人	52.5%	64.4%	71.2%	111人
健康づくりカレンダーへの掲載	11.4%	46人	43.5%	67.4%	69.6%	83人
市のホームページへの掲載	12.9%	52人	40.4%	53.8%	51.9%	76人
国保特定健診・後期高齢者健診の受診券に同封したチラシのがん検診案内	15.8%	64人	34.4%	43.8%	37.5%	74人
講演会・健康教育・健康相談時での案内	1.0%	4人	25.0%	25.0%	50.0%	4人
西吉野町総合検診の案内世帯通知	0.2%	1人	100.0%	100.0%	100.0%	3人

周知方法の認知と効果－女性

女性	認知率	女性542人中	胃がん 受診	肺がん 受診	大腸がん 受診	乳がん 受診	子宮がん 受診	獲得人数 推計(のべ 人数)
広報「五條」カルムの広場での 掲載	60.9%	330人	24.2%	39.4%	40.3%	47.9%	40.0%	633人
節目年齢の方への案内個別 通知	57.7%	313人	24.0%	40.6%	37.1%	43.5%	40.9%	582人
対象年齢に対する子宮がん、 乳がん、大腸がん検診の無料 クーポン券の送付	53.7%	291人	21.3%	41.6%	36.1%	50.5%	43.3%	561人
前回の受診者への案内個別 通知	28.4%	154人	30.5%	50.6%	57.1%	64.3%	51.9%	392人
健康づくりカレンダーへの掲載	26.8%	145人	25.5%	46.2%	46.2%	51.0%	47.6%	314人
地区自治会でのがん検診案内 回覧	35.1%	190人	23.7%	37.9%	33.7%	36.3%	32.6%	312人
市のホームページへの掲載	12.7%	69人	27.5%	53.6%	50.7%	53.6%	47.8%	161人
国保特定健診・後期高齢者健 診の受診券に同封したチラシ のがん検診案内	13.8%	75人	20.0%	30.7%	33.3%	29.3%	26.7%	105人
講演会・健康教育・健康相談 時での案内	3.9%	21人	14.3%	28.6%	33.3%	47.6%	42.9%	35人
西吉野町総合検診の 案内世帯通知	0.0%	0人						0人

調査目的

- ①五條市における本当の受診率の把握
- ②市で既に実施している取り組みの効果の検証
- ③受診率の向上のために効果的な方策の検討

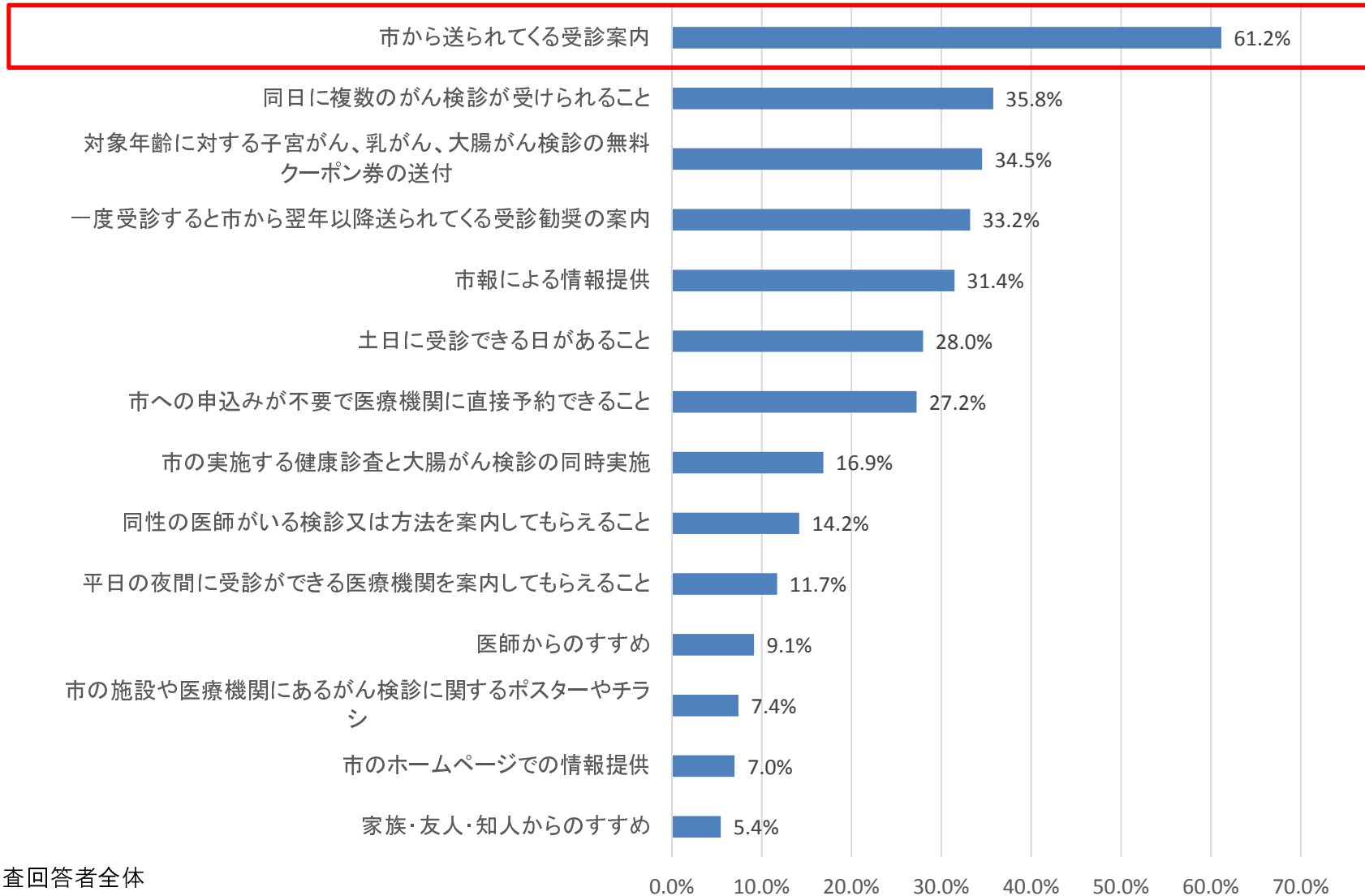
広報による周知：特に70代に効果あり

	胃がん検診受診者中 広報を見た人の割合	肺がん検診受診者中 広報を見た人の割合	大腸がん検診受診者中 広報を見た人の割合
40代	48.9%	50.0%	57.4%
50代	52.2%	54.3%	62.3%
60代	55.9%	62.7%	58.6%
70代	75.0%	63.2%	78.2%



40-60代に効果的な方策は？

がん検診を受けるきっかけ



* n=調査回答者全体



ではどのような内容の案内をすればいいのか？

年代別・がん種別 未受診者の意識

	胃	肺	大腸	乳	子宮
40代	検査の負担が大きい	自覚症状がないので検診を受ける必要性を感じない	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない	何か悪いものが見つかるのが不安	実施日時や方法など受け方が分かりにくい
50代	検査の負担が大きい	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない
60代	検査の負担が大きい	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない	がん検診を定期的に受けても安心とは思えない



1. 胃がん検診は検査の負担が大きいことが年代を問わず見られる
2. 40代はがん種別に抱えている意識が異なる
3. 胃がんを除く50-60代はいずれも検査を受けることの効果に疑念を感じている

1. 胃がん検診は検査の負担が大きいことが年代を問わず見られる
2. 40代はがん種別に抱えている意識が異なる
3. 胃がんを除く50－60代はいずれも検査を受けることの効果に疑念を感じている



これらのメッセージは、どのようにすれば伝わるのか？

まとめ

- ①五條市における本当の受診率の把握
→ほぼ目標に到達しているが、特に胃・大腸・子宮がん検診にはさらなる施策が必要。
- ②市で既に実施している取り組みの効果の検証
→市の広報による周知が最も効果があり、特に年代の高い層に効果的に働いていた。
- ③受診率の向上のために効果的な方策の検討
→年代・がん種に応じたメッセージによる個別案内の送付が必要と考えられる。